

平成 25 年度 終了研究開発課題に係る 終了評価書

研究機関 : (株)Skeed、学校法人慶應義塾

研究開発課題 : ロバストなビッグデータ利活用基盤技術の研究開発

研究開発期間 : 平成25年度

代表研究責任者 : (株)Skeed 北林 巧巳

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価 3

■ 総合評価点 : 17点

(総論)

ビッグデータ活用プラットフォームは、社会的に求められており、それが実装されたことは評価される。研究開発した基本技術、実証評価方法の妥当性などをさらに明確に成果報告書に説明すべきである。

(コメント)

- ビッグデータ活用プラットフォームは、社会的に求められている。
- 若干の不足はあるが、目標は達成された。
- 研究開発した基本技術、実験評価方法の妥当性等、学会発表資料が少ないので、成果報告に通常より明確に説明すべき。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

一般的に利用可能なビッグデータ活用プラットフォームを構築することは、クラウド利用が拡大する中で重要であり、自律分散型システムを活用するための研究開発は妥当であるが、具体的にどのように利用するか明確にする必要がある。

(コメント)

- 自律分散型システムを活用するための研究開発は現時点でも妥当。政策的位置づけも明瞭。
- 一般的に利用可能なビッグデータ活用プラットフォームを構築することは、クラウド利用が拡大する中で重要である。
- 自社の既存技術によるビジネス的限界と、この技術開発により得られるデルタを示すべき。
- 社会的に意義のある研究であるが、具体的にどのように利用するか明確でない。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価 2

(総論)

予期せぬ事態により研究体制の変更を余儀なくされたこともあり、開発の進め方や成果の説明がわかり難い状況となっている。数値目標、サービスの観点からの位置づけなどを簡単にわかるように示すべきである。

(コメント)

- 数値目標とそのサービスの観点からの意味付け、対応技術を簡単にわかるように示すべき。
- 研究代表者の逝去による影響で、研究開発の進め方に課題があった。
- リーダの金子氏が逝去されたこともあり、成果の説明が分かり難く、不十分。
- 研究総括者が逝去され、研究体制の変更を余儀なくされた。

(3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

限定された条件であるが実験及びシミュレーションを実施し、準備中の特許出願を確実に実施することで、結果として研究開発目標が達成されている。

(コメント)

- 開発技術の概要、その定性的効果、評価方法、評価方法の妥当性の説明を付けて、結果の達成云々を言うべき。
- 若干の不足があるが、現在準備中の特許出願を確実に実施することで、一応目標は達成されている。
- 限定された条件であるが、実験及びシミュレーションを実施し、結果として研究開発目標が達成されている。

(4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

今後の事業展開を検討するための有識者を集めて委員会を設置し、政策目標の年度計画に従い、当該年度の取組みが実施されているが、政策目標達成へのシナリオが分かり難い。

(コメント)

- 特許ベースに技術を展開すべき。
- コンソーシアムにおける自社の位置付けを明確に示すべき。
- 今後の事業展開を検討するための有識者を集めて委員会を設置している。
- 色々検討しているが、「勝」のシナリオが分かり難い。
- 政策目標の年度計画に従い、当該年度の取組みが実施されている。
- 今後早期に、特許取得、論文公表など、なされることを期待。

(5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

ヘルスケアやスマートシティといった大分野は、本研究開発を適用する分野として有望であるが、詰め切れていない。今後の活動に期待する。

(コメント)

- 協業企業と小さくてもよいので、プロジェクト化すべき。
- オープンソース化はビジネス的には疑問。
- ヘルスケアやスマートシティといった大分野は、本研究開発を適用する分野として有望である。
- 計画を熱心にやっているようであるが、詰め切れていない
- 政策目標達成のための計画は妥当であり、見込みはあると考えられ、今後の活動に期待。